

国際会議「グローバル2005」市長歓迎スピーチ

10月10日(月) 9:00～10分間

会場：エポカル

■「グローバル2005」にご参加の皆様、ようこそつくば市にお越しいただきました。私は、つくば市長の市原健一です。つくば市民を代表し、心からご来訪を歓迎いたします。原子力の分野で世界の指導的立場にある皆様、つくば市において4日間にわたる国際会議が開かれることを光栄に思います。

なお、この度、国際原子力機関（IAEA）と、エルバラダイ事務局長がノーベル平和賞を受賞されたことに対しまして、心からお祝いを申し上げます。

さて、会議初日の本日、市内の小中学校および高等学校の子供たちが、原子力科学の分野でご活躍されている皆様と、直接、交流できるプログラムを特別に設けていただき、市長としまして感謝いたします。つくば市と世界的な学会が連携し、科学の体験学習ができることは、つくば市の教育の大きな特色でもあり、大変、有意義に感じています。

皆様、特別セッションや展示ブースにおいて、エネルギー、環境問題、あるいは科学者の思いなどについてお話しいただ

き、子供たちの素朴な疑問や意見があった場合、それらに対してご意見をいただければ幸いです。

■ それではここでお時間をいただき、つくば市を簡単にご紹介したいと思います。

つくば市は 1987 年に合併により誕生した非常に若い都市です。日本を代表する教育・研究機関が集積し、科学技術の研究開発を進める「サイエンスシティ」を形成しています。

筑波大学を始めとする 3 つの大学と約 300 の研究機関が立地し、IT やバイオ、環境、ナノテク、宇宙、ロボットなど幅広い分野で 15,000 人以上の研究者が活動しています。日本の重要政策のひとつに「科学技術立国」がありますが、まさしくつくば市こそがその役割を担っている地域です。

一方では、日本の代表的な古典である 1,200 年前の「万葉集」にたびたび題材として取り上げられたほどの、永い歴史を持った地域でもあります。富士山をご存じの方は大変多いでしょうが、筑波山もまた神話の時代から日本人に親しまれてきた有名な山です。その裾野一帯に多くの歴史的遺跡があります。

こうした最先端の科学技術の研究開発と、古い歴史と伝統

が共存しているつくば市に、去る 8 月 24 日、東京とつくば市を 45 分で結ぶ高速鉄道「つくばエクスプレス」が開通しました。これにより、つくば市の「科学技術と歴史」のまちが日本中に広まることが期待されると同時に、「教育・子育てのまち」「文化芸術・スポーツのまち」としての魅力を発信できると考えています。

また、近い将来、成田国際空港までの高速道路も開通します。つくば市からは 40 分で行くことが出来るようになります。今後、「東京・つくば・成田」という交通ネットワークが確立し、これらの交通基盤を活かして、新しい文化をもつ独自の生活圏の確立、住みやすく快適で、質の高い生活が送れる「どこよりも住んでみたくなるまち」を創っていきたいと考えています。

■ 今回の国際会議の 1 ヶ月前には、日米のノーベル賞受賞者 4 人をこの会場にお招きし、つくば市内の児童生徒と「科学の楽しさと面白さ」と題して、3 時間にわたるシンポジウムを開催しました。エネルギー消費と環境問題を通して、気候変動についても活発に子供たちがノーベル賞科学者の皆さんに質問をし、お話を伺いました。

つくば市の小中学校ではエネルギー教育に積極的に取り組んでいます。たとえば、「節約つくろう自然エネルギー」という課題を設定し、壁面緑化によってクーラーのエネルギーを節約したり、自分たちで風力発電、太陽光発電などでエネルギーを作り出すことなどを行っています。

現在、すべての小中学校に10キロワット級の本格的な風力発電機を設置し、クリーンエネルギーに取り組むとともに、発電した電力を売電し、さらに売電したお金を原資としてエコマネーを発行して、これを市内の商店で活用する仕組み作りも進めています。

今後も、つくば市においてはエネルギー教育を通して、環境問題に取り組んでいきたいと思っています。

■また、つくば市には、多くの最先端の研究機関が集積していますが、その中でも、「高エネルギー加速器研究機構」は中性子科学や核種変換の研究における世界的な研究機関で、原子力の研究に大きな貢献をしています。

また、筑波大学では、がんの治療や診断において放射線を利用した医療分野の研究に力を入れるとともに、プラズマ研究センターを持ち、世界の最先端を行く核融合の研究に大き

な成果をあげています。

日本は人口と比較して自給自足できる資源がほとんどない国です。そのエネルギー供給源を外国の石油、石炭、天然ガスなどに頼っています。

日本のエネルギーの実情を考えた場合、原子力エネルギーは不可欠となっています。現在、日本では53基の原子力発電所が設置されており、すでに必要とする電力量の約1/3を原子力発電によりまかなっています。

地球の温暖化を防止する「京都議定書」はCO₂の削減を世界に呼びかけています。原子力発電は、CO₂を排出しない極めてクリーンで、環境にやさしい発電です。しかし、同時にヒューマンマネジメントがきちんとした安全管理の徹底がなければ、原子力発電をさらに活用することは困難です。

原子力の進展には、国民の理解と賛同が必要です。専門家の皆様は、原子力の持つクリーンエネルギーとしてのプラスの面と、放射性廃棄物という負の側面も含めて、正しい情報を発信し、理解を得ることが大切だと思います。

被爆国である日本は、原子力は使用方法によっては人類に対する脅威になることから、原子力に対する正しい知識やその必要性、安全性の確保、核不拡散、核兵器削減・廃絶を世

界中の人々に啓発し、安心して使え、将来に負の遺産を残さない原子力の技術開発と、平和利用のリード役を果たす責務があると思います。

■ なお、先日、「日本原子力研究所」と「核燃料サイクル開発機構」が合併し、日本最大の原子力の研究開発機関である「日本原子力研究開発機構」が、つくば市の北東約50kmのところに誕生しました。日本の原子力開発が始まってこの半世紀、多くの成果と同時に多くの課題がありました。これからの半世紀において、新しく誕生した研究機関の大事な使命は、これらの課題を克服し、いかに原子力を人類に幸福をもたらすエネルギーにするかということではないでしょうか。

今後、つくば市の「高エネルギー加速器研究機構」が、「日本原子力研究開発機構」と共同で進める大強度陽子加速器プロジェクトでは、物質科学、生命科学、材料科学、原子核・素粒子物理の分野において多くの成果が上げられるのではないかと期待されます。世界最大強度の陽子ビームを用いてこれらの幅広い科学を進展させることはもとより、何よりも“核種変換”技術の確立によって、使用済燃料から出る高レベル放射性廃棄物の安全・安心な処理が注目されています。

子供たちに、クリーンで安全なエネルギー供給源を残すことは、現代社会を生きる我々の使命です。そのためには、世界共通の問題として、核燃料サイクルの開発と放射性廃棄物の処理・処分の問題、そして核不拡散の問題等、解決しておかなければいけない問題が数多くあると思います。

■冒頭申し上げたように、つくば市とグローバル2005の共催で次の世代を担う子供たちをこの会議に招待してあります。子供たちにも、ぜひ、原子力エネルギーを通して環境問題の重要性を理解してもらい、原子力の必要性や安全性を考え、科学の未来に夢を育て欲しいと思います。

また、皆様には、会議の合間につくば市のもう一つの魅力である豊かな自然環境と歴史文化を是非お楽しみ下さい。この機会につくば市をよく見て、堪能していただき、再びつくば市を訪れていただくことをお願いいたします

どうぞ、グローバル2005が、実り多き成果を収められことを心からお祈り申し上げ、歓迎のご挨拶といたします。